



語のかたち 西江雅之

Number 5

英仏語や日本語に親しんでいる人々は、与えられた言語表現の中に、主語と述語“が見出せれば、それは”文“(sentence)であり、そうしたものが認められなければ、単語”(word)であると割り切ることが出来るかも知れない。そうであれば「わたしは、あなたを愛しています。」とか、「I love you.」のような例は、当然のことながら、「単語」であるとは見なされない。

しかし、東アフリカのスワヒリ語では、この文は“Nakupenda.”一語で表現される。この“一語一文”の仕組みは、次の通りとなる。

n - - a - - ku - - pend - - a
わたし 現在 あなたを 愛す 動詞肯定形

英語やロシア語や日本語のような言語では、一つの意味単位は一つのまとまりを成している。そして必要となれば、その基本単位の後ろや前に別の意味単位が付け加えられる。英語で示せば、

/buk + - s (複数) / (books)
/ri - (繰り返す) + - rait/ (rewrite) のようになる。

しかし、言語によって事態は異なる。アラビア語の場合、意味単位は基本的には三つの子音からなる。その子音の連続の隙間に母音(アラビア語の場合は、a, i, u, の三母音)が挿入され、多様な意味を成す。名詞や動詞のみか、動詞の人称、時制変化までもが表現されることになる。

“K-T-B”と三子音の例をとると、
KITaB (本) の複数形は“KuTub”となる。その他、

- KITaBa (書、文字書式)
- maKTaBa (書店)
- muKATiB (新聞記者)
- muKTaTib (購読者)

muKTaB (タイプライター)
KuTTaB (コーラン学校)
KaTABA (彼は書きた)

KaTAbTu (私は書いた)
のようなものまでが見られるのである。
こうなると、“KITaB”は“単語”として認められるとしても、“kaTaba”(彼は書いた)のような一語一文は、一体、どう扱えばよいのかという議論が出てくる。結局、“単語”という用語は、世界の言語全体を同じ基準で整理する場合には不適当だということになってくる。

しかし、如何なる言語でも、一つ以上の音声に支えられた“意味単位”が見られることには変わりはない。そこで、“ある言語に見られる意味の最小単位”を意味する用語が、“単語”に代わって二十世紀の前半から研究者たちに普及した。形態素 (morpheme)、“という用語は、その一例である。“意味の最小単位”は、大別すれば二種類になる。その(一)は、対象とする例が、そのまま自立して実際の場に現れることが出来るというものだ。/nado/ (窓) /kabe/ (壁) などである。

その(二)は、そのままでは現実に現れることが決していない意味単位である。たとえば英語の動詞 /walk/ (walked) の /t/ (ed) の部分は“過去”を意味するが、そのまま“t”だけを相手に向かって言うことは有りえない。すなわち、この /t/ は、何か別の意味単位と繋がらなければ実現しないものである。日本語の“食べる”をラテン文字で表記すれば、/taberu/となるが、それは /taber-/a-/u/ の連続した形であるということになる。日本語の動詞は一単語とされるが、実は最低二つ以上の意味

にしえ・まさゆき 1937年、東京生まれ。専門は文化人類学・言語学。アフリカ諸語、ビジン・クレオール諸語の日本における先駆的研究者。東アフリカ、インド洋諸島、カリブ海域での現地調査経験を多く持つ。また、「“伝え合い”の人類学」というテーマで、現場でのコミュニケーションに関する研究に従事する。現地の人々に自然に溶け込む研究態度で、“裸足の学者”との異名をもつ。東京外国語大学、東京大学、早稲田大学、東京芸術大学などで教壇に立った。

写真・西江雅之



単位で構成されているのである。語末の /-t/ は、/haber-/ という行為の “事実” を意味する。同様に /-eba/ は、“仮定” を、/o/ は “命令” を意味する単位であると言える。先ほど例にあげた英語の (30) は、必ず、その後には別の意味単位が続き、ス

ワヒリ語の “nakupenda” 中の /-ku-/ (あなたを) は、必ず、前後に別の意味単位を必要とする。さらに、アラビア語のような言語の場合は、複数の子音の間に挟み込まれる母音と共存して初めて意味を成す。

もつとも、以上の話はあくまでも基本的な意味単位のあり方についてであり、現実の言語の世界はもつと複雑なものである。たとえば、名詞の単数形を複数形 (二つ以上形) にする例だけを対象としても、そのあり方は様々だ。/-or- という仮想単語と複数を示す /-s/ という意味単位を想定して、そのあり方を示してみよう。

単数:	/pek/	英語と同じで語尾に
複数:	peks	英語と同じで語尾に
	s-pek	語頭に
	p-s-ek	語中に
	pe-s-ik	語中に
	pekpek	繰り返す
	pepek	一部を繰り返す
	pok	中の母音が変わる
	eat	まったく異なる形

等々である。 “一語一文” の言語の場合、このような組合せの豊かさには目を見張る。言語世界は広大だ。